

知床の森から

平成8年10月 第45号



ヤマモミジ (カエデ科)

紅葉ガリとさむ美しい

北見営林支局 ☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター ☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

紅葉の森で自然観察 第33回森林レク・In知床 彩り豊かな深山を楽しむ

『紅葉の森で森林浴・自然観察』と銘うった「第33回森林レクリエーション・In知床」が、10月15日(火)知床の自然観察教育林で行われました。当日は平日に関わらず北見市と近隣町村から定員一杯の23名が参加(うち女性が21名で、かつ初参加者は12名)し、深山のゆく秋を楽しみました。

紅葉が進んで明るさを増した森は、早や散りの落葉が足元で乾いた音をたてます。森林インストラクターが立止り説明をする樹木の樹名板が取付けられており、ここで樹木・森林・自然や、人間社会との関わりとしての林業について話を聞きます。山道の上下りの合間には、針葉樹林や広葉樹林、水が溢れてヒメシダの草原と化したポンホロ沼、その背後にそびえる名山羅白岳、ダケカバの大木の森、ロープ伝いの急坂下りと爽快なホロベツの滝、溪流美と深い緑のエゾユズリハの大群落、エゾシカの溜り場(ヌタ場)やミスナラ・イタヤカエデを初めとする大木など、次々と場面が展開し紹介されます。参加者のみなさんは好奇の目で見入っていました。



この知床の自然観察教育林はまさに深山で変化に富んでおり、とくに初参加者には印象の深い一日となったことでしょう。

コース延長約5㎞、4時間かけての知床の秋の森での自然観察は無事終了しました。

自然観察教育林に樹名板設置

原始の面影を色濃く残す知床半島の森林。その森林と自然をほぼ網羅し、代表しているのが知床自然観察教育林です。この森にはけもの(シカ道)や昔の集材道を活用した歩道があり、その歩道に沿って各所の樹木に、センターの職員たちの手で樹名板が取り付けられました。タイヤチューブを活用してゴムで糊りました。

この樹名板のお披露目となったのが10月15日に行われた第35回のイベントで、参加者たちの評判も良く、メモをとったりカメラを向けていました。

センターのイベントを通してこの知床の森を訪れる人たちは、そのほとんどが森林・林業・樹木に関わりがない世界の住人たちです。今後もこの森を訪れる多くの人たちを含め、この樹名板がきっと森林を理解する一助になることと思います。



森の夢 今年もためる

斜里・知床どんぐり銀行

秋晴れの9月28日(土)、斜里町運動公園の背後の通称「発見の森」(国有林142林班)で、斜里町と知床森林センターの共催で『自然探索どんぐり拾い』を楽しむ催しが行われました。

この催しは、町木ミスナラを増やしてどんぐりの森を豊かにしようと、昨年から開設された「知床どんぐり銀行」を今年も開設し、拾ったどんぐりを預金してもらい、町が用意した苗畑で育てられ、どんぐりの森や公園に植えようというものです。

当日は、預金登録者25グループのうち、近くの保育園児を含む80人が参加し、森林センター所長よりどんぐりの説明を受けてから、発見の森に入りました。およそ2時間余りの探索で約7キロのどんぐりが集まり、水槽に入れ虫食いなどを調べたあと、各人の通帳に記録してもらい、だんだん増える預金額に子供たちは「また拾うぞ」とニコニコ顔でした。なお預金額は図書券と交換されます。(この額はセンターでは11月2日のみお披露目して見られます。)

小丸太切り 木工ぬり絵 大好評 11月 しいと産まつり

好天に恵まれた10月6日(日)、知床の斜里町で、「第17回しれとこ産まつり」が開催されました。40近い参加団体(知床森林センターも入っています)が、役場横の町民公園にテントを張り、町長の挨拶のあと午前10時にまつりが始まりました。

行事内容は即売・飲食・催し関係などで、センターでは小丸太切り・木工ぬり絵、知床国有林に咲く森林植物(草本)の写真パネル展示、空中写真の実視体験などを用意しました。

結果として好評だったのが小丸太切り体験で、男女年齢を問わず参加しました。もう鋸を握り丸太を引き切ることのない時代、年配者は懐かしく子供たちにはもの珍しさで人気を呼んだのでしょうか。

また輪切りにした木に思い思いに絵を描く木工ぬり絵も人気で、熱心に鉛筆を握る母娘や幼児たちで終日賑わいました。やはり素材な素材、体験、手作りはいつも好評なようです。

今年もセンターの役割と、面目を保った「しれとこ産まつり」となりました。



ミスナラ800本植える 斜里町 植樹祭

斜里町・清里営林署主催、斜里町森林組合・知床森林センター共催による斜里町植樹祭が、10月10日(木)斜里町の峰浜の町有地で行われました。ここは知床半島のつけ根で、半島に向かうとき正面にそびえるうなべつ(海別)岳の山麓部にあたる場所です。

協力団体40余機関、参加者百数十名の中には地元小学生も多数参加していました。

主催者側の挨拶や営林署による植樹指導ののち、面積0.30haにミスナラ800本を植えました。

ミスナラは「町の木」です。当日は小学生たちや幼児子供たちが元気に、そして真剣に植えている姿が印象的でした。